



緑の担い手を  
目指そう!

# 南蒲原森林組合

**若手育成で林業の未来を守る  
新たな「南蒲ブランド」を開拓**

①左から森林技術員の佐藤陵さん(21歳)、竹石柊さん(29歳)、栗山顕匠さん(22歳)、リーダーの山崎大輔さん(46歳)。林業経験1年半の栗山さんは「自然の中で体を動かす仕事は楽しい」と話す。林業経験3年半の佐藤さんは「伐採の技術を高めたい」と目標を語ってくれた ②スタッフ同士の仲が良く、休憩時間や作業後に事務所へ集まると、笑い声が絶えないという



丁寧な仕事と伝統の技を継承する  
南蒲原森林組合の「南蒲ブランド」  
では、近年、若手育成に力を入れて  
いる。森林技術員18人のうち正職員  
の平均年齢は34・6歳と、とても若  
い。「若い人をしっかりと育てる『未  
来投資型』を重視しています。好き  
で林業に入った若者が山を嫌いにな  
つて辞めてしまうことを避けた  
い。若手を育てることは、うちだけ  
でなく、未来の林業全体の維持・活  
性化にもつながると思います」と組  
合長の名古屋金市さんは話す。

新人の指導には、現場経験の豊富  
な指導員が3ヶ月マンツーマンで対  
応。毎月の安全会議では事前にアン  
ケートを行い、過去の事例を挙げな  
がら質問を丁寧に検証する。誰もが  
発言しやすい環境づくりに努めてい  
る。先輩たちの卓越した技術や仕事  
への姿勢も若手の大きな励みだ。  
この日の現場は平成23年の水害で  
森林崩壊が発生した三条市下田の荒  
廃地。リーダーと若手3名によるチ  
ームが固い地盤に穴を掘り、植栽の準  
備を進めていた。機械化が進む林業  
の現場でも手作業でしかできない工  
程がある。熱心に作業に取り組むチ  
ームの姿から南蒲ブランドが次世代に  
受け継がれていく力強さを感じた。



③固い地面で行う穴掘り作業は重労  
働。今もこうした丁寧な手作業が林業  
を支えている ④「読売の森」と「にい  
がたの『緑』の百年物語」の植樹活動の  
現場。後日、子どもたちが苗木を植え  
付ける予定 ⑤唐鍬(とうくわ)で固  
い地面に穴を掘る、竹石柊さん。「林  
業は仕事の成果が分かりやすい。季節  
を感じられる現場も楽しい。残業がな  
いのも良いです」

**緑の担い手** ~大自然の中で、プロ意識を持って働く人たち~

**竹石 柊さん**  
TAKEISHI SHU  
**年齢:29歳 林業経験:4年6ヶ月**

**自然環境を守る、大切な仕事**

渓流釣りやアウトドアが好きで、山の仕事を興味を持ちました。森林を整備することで川の生態系も守られると知り、自分の仕事が自分の好きなことにつながっているのがうれしいです。現在はGPSを使った測量を担当。任せてもらえて喜びと責任を感じています。林業は体力を使う大変な仕事ですが誇りを持って取り組んでいます。もっと多くの人にこの仕事の大切さを知ってもらえたならと思います。

竹石 柊さん

